

しもの診療所だより 5月号

みなさんこんにちは。今月号は皮膚掻痒症のお話です。皮膚に目立った異常がみられないにもかかわらず、かゆみが出る病気です。環境変化による皮膚の乾燥や皮膚の老化により起こる場合が多いのですが、慢性腎不全、肝疾患、痛風、糖尿病、甲状腺疾患、鉄欠乏性貧血、薬剤中毒など様々な原因があります。入浴後などの体が暖まった時や入眠時は、とくに出やすいです。引っかくとさらにかゆみが増し、皮膚に傷がつくまで引っかかないとおさまらないこともあります。また、かゆみのため眠れないこともあります。内臓疾患がかゆみの原因となる場合も少なくないので、内臓疾患の有無を確認することも必要です。かゆみの原因疾患がある場合には、その治療を行います。皮膚に対しては、尿素軟膏やワセリンを使用して皮膚の保湿を行います。引っかいて二次的に皮膚炎がみられる場合には、ステロイド外用薬を使用することもあります。また、全身性のかゆみの場合は抗ヒスタミン薬を内服することでいくらかは軽減します。皮膚のかゆみでお困りであれば、お気軽にしもの診療所にご相談ください。

しもの診療所 院長 川井 祐輔